非専攻課程ロシア語教育と習得基準をめぐって

堤　正典

キーワード：ロシア語教育，CEFR, ТРКИ，習得基準

1. はじめに

日本においてロシア語が学習される場としては，大学の非専攻課程として，すなわち，いわゆる第２外国語として，というのが実際上大きな部分を占める．もちろん，専攻課程と比べると学習時間数も限られるため，習得できるロシア語力も高いものではないことが一般的であるが，学習人口で言えば，専攻課程を上回ることは明白である．

非専攻課程のロシア語教育においても，各担当教員によって様々な教材が開発され，様々な教育内容の工夫がなされてきた．我々も，我々なりの考察を加えたいと考える．

我々は，このところロシア語を大学非専攻課程で学習する場合の習得基準について注目している．自らもその教育を行うなかで，習得基準を設け，それを学生に学習のためのロードマップとして提示し，学生の目標とさせることが発想の原点であった．ここでは，特に習得基準をふまえて，ロシア語教育について考察したいと思う．

2. 非専攻課程ロシア語教育とCEFRおよびТРКИ

言語の習得基準として現在注目されているものに欧州評議会による「ヨーロッパ言語共通参照枠」（Common European Framework of Reference for Languages: CEFR）がある．これは「複言語主義」「行動中心主義」等に基づいており，最下位のA1レベルから，A2，B1，B2･･･とレベル付けされて，何らかの言語を伴う行動が「～できる」というCan-do Statementとして記述されている．

学習者がその言語でどのような行動をとることができるか，という観点から基準が成り立っているので，異なる言語でも共通の習得基準として用いることができる．なお，「行動中心主義」に基づくため，その行動で用いられる言語形式（文・表現）などは特定されておらず，とにかくその行動が可能であるということがその言語習得基準を満たすことになる(このことは，後に述べる非専攻課程の習得基準についての部分で少々の考察を加える)．

さて，ロシアにおけるロシア語検定 ТРКИ (Тестирование по русскому языку как иностранному) もCEFRに準拠していて，大学学部入学が許可されるロシア語力とみとめられる「第１レベル」（I сертификационный уровень）はCEFRのB1レベルに相当する．

この「第１レベル」は，日本のいくつかのロシア語専攻課程で卒業時の目標とされており，我々の調査では台湾の大学のロシア語専攻課程においても（中国文化大学，淡工大学）同様の目標とされている，ということは，専攻課程で学んでいなくとも，ТРКИの「第１

堤正典・小林潔編『ロシア語学とロシア語教育Ⅲ』神奈川大学ユーラシア研究センター，2011年，pp. 5-9.
Masanori TSUTSUMI and Kiyoshi KOBAYASHI (eds.) *Russian Linguistics and Language Education.* III. Yokohama: The Eurasia Research Centre Kanagawa University, 2011, pp. 5-9.

レベル」に合格していれば,専攻課程を卒業したのと同等のロシア語力ということになる.

非専攻課程でロシア語を学ぶ学生にも,1年間(実際には10ヶ月間)ロシアに留学してロシア語を学ぼうとする者たちもおり,そのような学生たちには,まず「第1レベル」を目指すようにと指導すべきだと考える.筆者の勤務する神奈川大学でも,まだまだほんの少数ではあるが,そのレベルに到達した卒業生もおり,彼らはロシアに係わる仕事に就いている.

このような比較的上位のレベルの学生においてCEFR／ТРКИが指標となりえるが,そこまでではないレベルの学生にとってはどうなるだろうか.

神奈川大学(横浜キャンパス)の1年次配当としてロシア語初級AとBが開講されており,それを両方とも前期・後期とったとして,56～60回の授業数である.ようやくCEFRのA1レベルにあたるТРКИ「入門レベル」(элементарный уровень)に必要とされる時間数となる.

(1) 神奈川大学横浜キャンパス　初級A/B
　週・計2回　半期14～15回(試験週を除く)
　　14～15回×週2回×2期＝56～60回

(2) ТРКИ「入門レベル」(Элементарный уровень)(CEFR A1 相当)
　　→ 100～120学習時≒50～60回

しかし,実際には日本の大学で学んだ場合(2)の時間数ではそのレベルに到達するのは経験的に言って難しい.

学習時間に乏しい非専攻課程では,まずA1レベルにいたる前のステップで1年以上かかるのであれば,その細分を明らかにすることが必要でなる.それを仮に「Pre Aレベル」と呼ぶ.

「Pre Aレベル」は,CEFRにつながるものを想定しながらも,「行動中心主義」によるCan-do Statementとは多少異なるものになると考えている.というより,むしろ「Pre Aレベル」では「行動中心主義」は制限せざるをえないと考えるのである.

ごく初歩の段階は,語彙にしても文法にしても非常に限られた知識しかなく,言語の運用力は非常に制限されたものである.Can-do Statementは,純粋には特定の言語形式のみ(すなわち特定の文や表現のみ)が用いられることを述べているわけではない.しかし,いまだ語学力が最初歩の段階では,特定の表現が使えるようになったことを基に習得基準が構成されざるをえないであろう.しかし,それでも,形式上Can-do Statementにしておけば,A1レベルへの移行・連続もスムーズになるだろう.

さて,まず習得すべき「表現」が確定するならば,その運用を成り立たせるものとして

の「語彙」と「文法」，さらに「レアリア」が明確になるだろう．結局のところ，表現・語彙・文法・レアリアの 4 部門でそれぞれの連関を十分に考慮に入れて，習得のステップ（基準）を策定することになる．

（3）習得基準

a. 表現の習得基準

b. 語彙の習得基準

c. 文法の習得基準

d. レアリアの習得基準

CEFR においては「言語中心主義」から，特定の表現を取り上げることも，語彙や文法についても基準を明確にすることもしない．しかし，個々の言語の学習の最初期の段階においては，上述のようなものを想定していくことが必要であると考える．

もとより，出版されている教科書ではいずれも，教科書を編纂するにあたってどのようにステップアップしていくかが何らかの形で検討され，盛り込まれているわけだが，CEFR とより親和性の高い教材を作成するとなると，ここで述べたような習得基準に基づくことがひとつの方法になるだろう．

ここでは，習得基準の上記のようなアウトラインを提示するにとどめさせていただく．

3. まとめにかえて

非専攻外国語教育とは言え，学生のキャリアデザインに貢献することも不可能ではなく，逆に現在の大学教育ではそれも求められる．留学をして，1 年（あるいは 10 か月）現地でロシア語漬けで学習に取り組むことまで含められるのであれば，大学卒業時においてТРКИ の第 1 レベル（CEFR の B1 レベル）まで到達することもありえる．

このようなレベルに到達することも，初歩の段階で着実にステップアップしていくことが必要である．

非専攻課程教育においても，特に初歩の段階での習得基準の策定は，コースデザインを見直すことであり，それは学生のキャリアデザインにつながるものでなければならないと考える．

参考文献・口頭報告

小林潔．2007.「ロシア語教育とヨーロッパ共通参照枠」，中澤英彦・小林潔編『ロシア語学と言語教育』（東京外国語大学），pp. 83-119.

小林潔，尾子洋一郎，堤正典．2009.「ロシア語初学者用語彙データベースの制作と運用」（学会予稿:日本ロシア文学会第 59 回研究発表会），『ロシア語ロシア文学研究』41(2), p. 22.

小林潔, 堤正典. 2010. 口頭報告「ロシア語教材を見直す――非専攻課程習得基準の策定を念頭に――」, ロシア・東欧学会／JSSEES2010 年合同研究大会（10 月 24 日於天理大学, 2010 年）.

堤正典. 2002. 「ロシア語初等学習者のための文法と語彙 ――動詞・形容詞」, 『神奈川大学言語研究』（神奈川大学言語研究センター）24, pp.149-167.

堤正典. 2004.「ロシア語初等学習者のための文法と語彙 ――名詞」, 『神奈川大学言語研究』（神奈川大学言語研究センター）26, pp. 47-64.

堤正典. 2007.「ロシア語の文字の学習をめぐって ――河野六郎氏の「文字論」からの考察――」,中澤英彦, 小林潔編『ロシア語学と言語教育』（東京外国語大学）, pp. 27-34.

堤正典. 2009a.「図書紹介 ロシア語教育研究会編著『授業づくりハンドブック ロシア語』」, 『ユーラシア研究』（ユーラシア研究所）40, p. 72.

堤正典. 2009b. 口頭報告「非専攻課程のためのロシア語習得基準の策定によせて」, 木二会例会（8 月 29 日於東京外国語大学）.

堤正典, 小林潔. 2009. 口頭報告「台湾におけるロシア語教育視察報告」, 神奈川大学ユーラシア研究センター設立記念ワークショップ（6 月 5 日於神奈川大学）

堤正典, 小林潔, 尾子洋一郎. 2009. 「ロシア語教育における基本語彙データベースの活用とその効果について」, 『私立大学情報教育協会平成 21 年度教育改革 IT 戦略大会予稿集』（私立大学情報教育協会）, pp. 220-221.

堤正典, 小林潔. 2010. 「非専攻課程ロシア語教育を考える――習得基準・言語政策・IT――」,日本ロシア文学会 60 周年記念大会（第 60 回全国大会）（11 月 6 日於熊本学園大学）.

中澤英彦, 臼山利信編訳. 2006.『世界のロシア語 2003・ロシア連邦外務省報告書』上巻（東京外国語大学語学研究所・筑波大学外国語センター）, 185p.

中澤英彦・臼山利信編訳. 2007.『世界のロシア語 2003・ロシア連邦外務省報告書』下巻（東京外国語大学語学研究所・筑波大学外国語センター）, 247p.

吉島茂, 大橋理枝他訳編.2004. 『外国語教育 II ――外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠――』. 朝日出版社.

非専攻課程ロシア語教育と習得基準をめぐって

堤　正典

日本においてロシア語が学習される場としては，大学の非専攻課程として，すなわち，いわゆる第２外国語として，というのが実際上大きな部分を占める．学習人口で言えば，専攻課程を上回る．そして，習得基準を設け，それを学生に学習のためのロードマップとして提示し，学生の目標とさせることが求められる．

言語の習得基準として現在注目されているものに欧州評議会による「ヨーロッパ言語共通参照枠」（Common European Framework of Reference for Languages: CEFR）があり，それに準拠したロシアにおけるロシア語検定 ТРКИ (Тестирование по русскому языку как иностранному)がある．後者の「第１レベル」（I сертификационный уровень）は CEFR の B1 レベルに相当し，日本や台湾ののいくつかのロシア語専攻課程で卒業時の目標とされている．つまり，専攻課程で学んでいなくとも ТРКИ の「第１レベル」に合格していれば，専攻課程を卒業したのと同等のロシア語力ということになり，実際にその学力を身につける者もいる．

実際の非専攻課程の教育現場では学習時間に乏しいので A1 レベルにいたる前のステップ「Pre A レベル」を示すことが必要である．このレベルでは，CEFR につながりを保ちつつも，「行動中心主義」は制限せざるをえない．語学力が最初歩の段階では，特定の表現が使えるようになったことを基に習得基準が構成されざるをえないのである．そして，まず習得すべき「表現」が確定するならば，その運用を成り立たせるものとしての「語彙」と「文法」，さらに「レアリア」が明確になる．これら４部門でそれぞれの連関を十分に考慮に入れて，習得のステップ（基準）を策定することになる．

同時に，非専攻課程教育においても，特に初歩の段階での習得基準の策定は，コースデザインを見直すことであり，それは学生のキャリアデザインにつながるものでなければならない．